

チーム名	ブルー・シーナイン	大学名・学部	東京経済大学	ニューノーマルステージ
プラン名称	見て、歩いて、創る。真鶴の「美」			
テーマ	ニューノーマル時代に対応する観光まちづくり			
リーダー名	山崎菜々子	メンバー名	山崎菜々子、鈴木多聞、清水かれん、八鍬賢太、本間大暉、岡野谷知花、矢嶋雅大、小幡亮太	
指導教職員名	青木亮			

これからの観光まちづくり

観光名所を目的にする従来型の観光

町のそのままの暮らしが観光資源

観光トレンドの転換を行うこと

ニューノーマルな観光まちづくり

課題

地元の人が、街並みなどに存在する「真鶴の美」を当たり前すぎるために認識していない

提案すること

改めて地元の魅力を知ること、
今以上に真鶴を好きになってもらう

そして

町の魅力を熟知した地元の人暮らし自体を観光資源にできる町を目指すプラン

提案内容

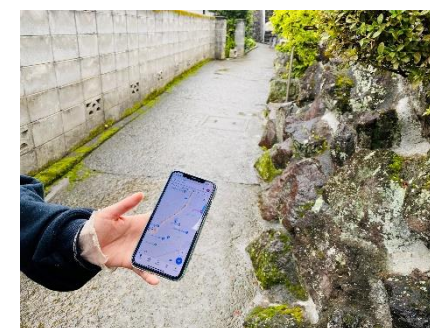
01.本小松石看板プロジェクト

→ 町全体を名産本小松石の看板で統一



02.『美の基準』を体感し、創造する。

→ リノベーションした体験施設で知識のステップアップ



03.発見から始まる背戸探索

→ 背戸道発見をアプリで支援

自分の町の「当たり前」を「特別」に感じられる提案

真鶴町役場の方々を始め、多くの方々に本プランへのご賛同を頂きました。

プランの新規性

- ・町の暮らしの中に眠る魅力を有効活用
- ・本小松石看板で町全体の景観を統一
- ・『美の基準』を次の世代で解釈し続けていける取り組み
- ・観光目的から避けられてきた背戸道を活用する新しい視点
- ・「町の良さ」に興味を持った人を中心的に集める新しい観光の提案

プランの効果

真鶴のまちづくりに興味を持って来訪する人による

経済波及効果 約1億2千万円

流れ

地元の人 3つの施策で3つの「美」を再認識

景観やまちづくりに関する意識の高まり

真鶴のことがもっと好きになる

真鶴町

暮らしを観光資源にするニューノーマルな町に

外部の方

真鶴の新しいまちづくりを発見&体感&発信